

変えることはおもしろい

～授業の何を変えればいいのか？～



次期学習指導要領改訂に向け、資質・能力ベースへとカリキュラムの重点をシフトすることが求められています。平成27年度 教育課程特別部会「論点整理」でも、「育成すべき資質・能力」「学習指導方法の不断の見直し（例：「アクティブ・ラーニング」）」、そして、どのような教育課程を編成し、どのようにそれらを実施・評価し改善していくか「カリキュラムマネジメント」の重要性など、新しい学習指導要領等の在り方に具体的な方向性が示されています。

資質・能力ベースのカリキュラムを目指すことは、これからの社会で必要とされる資質・能力との関係から、学校で教える各教科等の教育内容を問い直すこととしても捉えられます。学校の教育目標を踏まえた教科・領域等横断的な視点から、学校全体でどのように資質・能力を育てていくのかが問われています。

しかしながら、学校のニーズが多様化・複雑化している中で、教科・領域等の教育内容を全て変えることは容易なことではありません。新たな教育の展開に合わせ、日々の授業の内容を全て変えようとし、「改革、改革、…でも、結局何も今までと変わらない」という改革疲れを引き起こしかねません。今日、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）」による指導法の不断の見直しについて様々な指導方法、書籍等が提案されています。ただし、「アクティブ・ラーニングの意味はわかるけど、今までの授業の何を変えればアクティブ・ラーニングと言えるのか」という疑問を持たれた方も多いのではないのでしょうか。

私たち新潟大学教育学部附属新潟中学校では、これからの学校教育の変化を踏まえ、具体的にどのような授業を構想すべきか研究を進めています。「思考の広がり深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得する授業」を研究主題に、平成26年度から国立教育政策研究所の「教育課程研究指定校」として研究を進めてきました。

これまで当校では、思考を中核として研究を進めてきました。一つの教科に限らず、全教科・領域で、生徒たちの思考を活発に促し、思考の広がり深まりの中で「学ぶ喜び」の実感・納得をしていく授業を考えてきました。全体研究を推し進め、学校が一つのチームとして、子どもたちのためによりよい授業を構想し、一つ一つのことを変えていくこと、そして変わっていくことの充実感・達成感が学校づくりのエネルギーに変わっていきます。

今年度も全国、新潟県、新潟市内の先生方とのネットワークを広げ、当校の研究を様々な視点からご示唆していただきたいという願いから、「平成28年度教育研究発表会」のご案内をさせていただきます。

思考の広がり深まりの中で「学ぶ喜び」を実感・納得していく授業

今年度、「思考の広がり、深まりの中で、『学ぶ喜び』を実感・納得していく授業」を構想する上で、3つの重点を設定しました。以下、3つの重点について、英語の授業（6月2日実施）を例に説明します。

- 単元 - Lesson 2 France—Then and Now NEW CROWN English Course 3
- 主な言語活動 - ディスカッション

1. 意味ある文脈での課題設定 - 学習内容を自分の経験と結びつけ、深く追究していく過程

課題 - 生徒が学習目標を達成するために自ら取り組み解決しなければならない問題

なぜ「意味ある文脈」？

生徒の思考は、**生徒が課題を解決する必要性を感じる状況に直面する中で活発に促されます**。教師が授業を構想する際に、単元や題材の到達目標に向けて、生徒の実態に応じて、教材を適切に選択、組織し、生徒が課題を見いだせるようにします。課題が生徒にとって学ぶ意義やリアリティーを感じられるようにするためには、生徒が課題を見いだすまでの「**文脈**」が大切です。**生徒が、これまでの既有知識・経験を基に、問題を自分ごととして捉え、追究したくなるような状況設定をします。**

授業の実際

ALT から生徒へ「仮に作成した附属新潟中学校の web ページについて、生徒の立場から考えを述べてほしい」と依頼



「学校行事」を紹介するページとして、「ときわ体育祭」か「演劇発表会」のどちらがおもしろい行事であるか生徒に投げかけ、生徒と内容の議論



ALT と生徒との考えの相違点などをホワイトボードに視覚化。また、生徒がうまく伝えきれない考えを、JTE や ALT が言い換えたり、質問したりしながら引き出し、議論をつなげ、議論のおもしろさを実感



ALT から「議論を通して、内容が深まった。さらに他のページも議論し、附属新潟中学校を紹介する web ページを私と共同作成してほしい」という依頼

課題 - 附属新潟中学校の英語版 web ページを ALT の先生と共同作成するために、ALT の先生や仲間と内容の是非をどのように議論すればいいだろうか。

2. 対話を促す工夫 - 仲間とのかかわりを通して、自らの思考を広げ深める過程

対話 - 一人一人の考えの違いを大切に、多様な考えを比べ、関係付けながらよりよい解（見方・考え方、価値、行為など）を創り出すこと

なぜ対話？

- △ 課題解決の中で、仲間とよりよい解を求め、かかわり合うこと（例：考え方の交流、検討、練り合い等）だけでなく…
- かかわり合うことを通して、生徒が自分と仲間との考えを価値あるものとして認め合おうとする質的なかかわりに焦点を当てています。なぜなら、生徒は自分の考えと仲間の考えとを比べ、関係付ける思考を働かせる際に、仲間の気持ちや思いなどにつなげて考えようとするからです。**自分と仲間の考えの違いを大切に受けとめ、考えの違いを比べたり、関係付けたりして、生徒の考えや価値観などが質的に変容する際に、「対話」が促されると考えます。**

授業の実際



相手の考えを引き出すための言語材料を習得・習熟
↓
生徒それぞれの考えの相違点などの議論のやりとりを、ホワイトボードに視覚化
↓
相手の考えを理解し、伝え合おうとする対話が促される

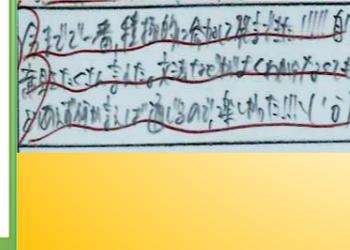
3. メタ認知を促す工夫 - 課題解決までの考え方、学び方などを価値付ける過程

メタ認知 - 課題解決途中、解決後に、自らの「学び」を価値付けたり、有用だった思考を振り返ったりすること

なぜメタ認知？

課題解決途中、解決後に、学んだことが自分にとって、どのような意味がある学びであったのか、自らの「**学び**」を価値付けることで、**自分の成長を実感・納得**します。振り返りの場の設定だけでなく、単元を通して学んだことで何がわかるようになったか、できるようになったのか実感・納得するような活動も設定します。こうすることで、「単元で学んだから、△△の仕組みがよくわかるぞ」「関連した話題についてもっと学びたいな」という情意面が育まれ、学びに向かう力が高まります。

授業の実際



日々の授業振り返り、議論の記録（ICレコーダーを書き起こしたもの）などを整理、俯瞰
↓
課題解決までの考え方、学び方の価値付けが促される